くま経プレス

ニュース

熊本駅前再開発の起爆剤に

熊本地方合同庁舎B棟が着工

熊本国税局や熊本西税務署など国の出先機関などが入居する熊本地方合同庁舎B棟（熊本市西区春日2丁目）の建設工事が、10月1日から始まった。国の出先機関見直しに伴って一時凍結されていたが、「熊本駅前再開発の起爆剤に」と期待する県や熊本市の要望を受け、2年遅れで着工したもの。14年10月の完成予定で、熊本駅周辺開発の核として期待されている。

▲九州新幹線高架側から見た完成予想図。B棟（写真右側）は地上9階、地下2階建て、延べ床面積約2万4470㎡。九州財務局などが入るA棟の南西側に建設する

14年10月の完成予定

7官署、700人が入居

B棟は、昨年1月に完成したA棟（地上12階・地下1階）の南西側に建設。敷地面積は1万9136㎡。建物は地上9階、地下2階建てで、延べ床面積約2万4470㎡。熊本国税局、熊本西税務署、長崎税関八代税関支署熊本出張所、自衛隊熊本地方協力本部、熊本行政評価事務所、熊本国税不服審判所、九州地方環境事務所の7官署、約700人が入居する予定。総事業費は約81億円。民間資金を活用するPFI方式を採用し、九電工が代表企業の㈱熊本合同庁舎PFI（熊本市）が施設整備から維持管理までを担う。敷地内に商業施設も整備する計画。

地域交流空間を創出

市電田崎橋電停近くの南側敷地には、シンボルツリーのある緑化空間を計画。市電二本木口電停までの空間にはサイドリザベーションや県道と一体となる「緑の森」を整備し、民間収益事業用地までのアプローチとして人の流れと賑わいを創出する。また、A棟とB棟の間にある「交流の広場」に面して、パブリックスペースとして玄関ホールと食堂を計画し、地域に開かれた庁舎として整備を進める。

▲熊本地方合同庁舎B棟の建設現場。奥に見える建物はA棟（地上12階建て）

▲熊本市中央区二の丸の熊本合同庁舎

▲A棟とB棟の間には地域住民との交流の広場を設け、開かれた庁舎として整備を進める

入居官署などのフロア構成

9階	機械室
5～8階	熊本国税局
4階	熊本行政評価事務所 熊本国税不服審判所 九州地方環境事務所
3階	熊本西税務署 自衛隊熊本地方協力本部
2階	熊本西税務署 共用会議室
1階	熊本西税務署 長崎税関八代税関支署熊本出張所 食堂
B1~B2階	駐車場

開業1年、来館者数90万人超へ

くまもと森都心プラザ

▲熊本駅前の再開発ビルA棟、2階～6階に入居する「くまもと森都心プラザ」。10月1日で開業1周年を迎えた

熊本駅前の再開発ビルA棟の2～6階に入居する「くまもと森都心プラザ」（熊本市西区春日1丁目）が10月1日、オープン1周年を迎えた。

同プラザは熊本駅前再開発の核施設としてオープン。今年8月末時点の来館者数は84万2912人を記録し、熊本市が当初想定していた年間約50万人という来館見込み数を大幅に上回り、順調な滑り出しとなった。同プラザでは「9月の見込みを合わせると、丸1年で90万人超の来館者になりそう。100万人の大台も10月一杯で、達成可能とみている」と話す。

同施設は「知の拠点」として観光情報、図書館、ビジネス支援、コンベンションなどが1ヵ所に集まった複合施設。特に好調なのが3階、4階にあるプラザ図書館。8月末までの図書館来館者は約55万人。プラザ全体の来館者の半数以上が図書館を目的に来館しているという。